

はままつ 市議会だより

第193号

令和4年12月5日

身近な市議会を目指して



もくじ contents

◎9月定例会のあらまし	P2
◎可決した主な議案	P3
◎行政区再編に関する協議の経過	P3
◎決算審査特別委員会の状況	P4
◎常任委員会の状況	P6
◎代表質問	P7
◎一般質問	P8

「静物」 制作年不明 秋野不矩 作

浜松市秋野不矩美術館蔵

市議会のくわしい情報、会議の映像は
ホームページで公開しています

浜松市議会

検索

スマートフォンはこちらから →



9月
定例会

3年度決算に対して6項目の指摘事項

河川における浸水対策など総額101億円の補正予算を可決

9月定例会は、9月6日から10月27日までの52日間にわたって開催し、3年度決算や4年度一般会計補正予算、条例案、人事案件のほか、意見書などの審議を行いました。

◎議案上程

9月6日の本会議では、4年度一般会計補正予算、3年度企業会計決算など、30件の市長提出議案を上程し、所管の各常任委員会に審査の付託をしました。



本会議での決算審査特別委員長報告

◎補正予算などを可決、決算上程

9月14日の本会議では、各常任委員長から審査の経過と結果が報告された後、1議員から一般会計補正予算など5件に対する反対討論があり、採決した結果、いずれも原案のとおり可決・認定しました。また、3年度一般・特別会計決算14件を追加上程し、決算審査特別委員会に審査の付託をしました。

◎代表・一般質問に13議員

9月28日の本会議では、5会派の代表議員が代表質問を、9月29日及び30日の本会議では8人の議員が一般質問を行い、市政の諸課題について市の考えをたどしました。

◎3年度決算を認定、意見書を可決

10月27日の本会議では、決算審査特別委員長から審査の経過と結果及び決算に対する指摘事項（詳細は4ページのとおり）が報告されました。そして、1議員から3年度一般会計決算など5件に対する反対討論があり、採決した結果、決算14件をいずれも認定しました。また、議会提出議案として意見書5件を可決しました。

可決した意見書

意見書とは、国や県等が実施すべき事項について、議会の意思を意見としてまとめ、内閣総理大臣や関係行政機関などに対して提出するものです。

- ◆保護司及び保護司会の活動に関する支援の充実を求める意見書
- ◆地方公共団体情報システムの標準化・共通化に関する意見書
- ◆親元就農者を雇用する家族経営体への支援に対する意見書
- ◆税制改正に当たり自動車ユーザーの負担軽減・インフラ整備等を求める意見書
- ◆核兵器のない世界の実現に向けて一層の取組推進を求める意見書

3日	10月	30日	29日	28日	27日	26日	22日	14日	13日	7日	6日	5日	9月	30日	25日	12日	8月
決算審査特別委員会 (第2分科会)		本会議(一般質問)	本会議(一般質問)	本会議(代表質問)	教合同委員会	厚生保健・市民文 議会運営委員会	行財政改革・大都市 制度調査特別委員会	決算審査特別委員会 (全体会)	本会議(採決・決算 上程)	地方創生調査特別 委員会	各常任委員会 議会運営委員会	本会議(9月定例 会開会・議案上程)	行財政改革・大都市 制度調査特別委員会	各常任委員会 議会運営委員会	各常任委員会	行財政改革・大都市 制度調査特別委員会	

議会活動の経過

可決した主な議案

令和4年度一般会計補正予算

総額101億5800万円

- ◆光熱費などの価格高騰への緊急支援として、住民税非課税世帯などに対し1世帯当たり5万円を支給 38億4400万円
- ◆原油価格・物価高騰の影響を受けている社会福祉施設及び児童福祉施設などの光熱費について、価格上昇相当の一部を支援 6億4224万円

- ◆大河ドラマ「どうする家康」放送開始に伴う道路舗装修繕などのほか、緊急性の高い河川における浸水対策 5億2508万円
- ◆児童養護施設、保育所などで働く職員の収入を引き上げた事業者に補助金などを交付 2億8058万円
- ◆市外からの移住者に対し住宅の取得費や賃貸初期費用などを助成 1億155万円

行政区再編に関する協議の経過

協議の経過はこちらから

区制度協議の経過

検索



行政区の再編については、行財政改革・大都市制度調査特別委員会において、協議を進めています。4年6月から10月までの協議では、区名の募集・選定について、委員会の意見を行政区画等審議会に伝えるよう当局へ要請するとともに、協議会のあり方として、区協議会及び地区コミュニティ協議会の基本構成や条例規定事項の内容を了承しました。

【再編後の区名案】



※再編後の区の名称については、浜松市行政区画等審議会から11月1日に上図のとおり答申がありました。

【再編後の区協議会などの概要】

- 1 区協議会を設置
 - ・代表会と地域分科会で構成する
 - ・天竜区協議会は代表会と地域分科会を一体として運営
- 2 地区コミュニティ協議会を設置（任意）
 - ・概ね地区自治会連合会の単位で設置することができる
 - ・協働センターなどに事務局を置き、コミュニティ担当職員がサポートする

【行政区再編に係るスケジュール】

- 令和5年1月 行政区画等審議会
区協議会における答申内容の報告
- 2月 区設置等条例議決
- 令和6年1月 行政区再編(3区)の施行

2日	1日	12月	30日	29日	18日	11日	7日	11月	27日	26日	18日	17日	6日	5日	4日
本会議(一般質問)	本会議(一般質問)		本会議(代表質問)	議会運営委員会 本会議(代表質問)	本会議(11月定例会開会・議案上程)	議会運営委員会 本会議(11月定例会開会・議案上程)	各常任委員会 交通政策・大規模災害 対策調査特別委員会 議会運営委員会		本会議(採決・9月 定例会閉会)	議会運営委員会 行財政改革・大都市 制度調査特別委員会 本会議	議会運営委員会 (全体会)	厚生保健委員会 決算審査特別委員会 (第1分科会)	決算審査特別委員会 (第2分科会)	決算審査特別委員会 (第1分科会)	決算審査特別委員会 (第1分科会)

決算審査

3年度決算について、議長と監査委員を除く43人の議員で構成する決算審査特別委員会を設置して、2つの分科会で集中的に審査を行いました。今後の予算編成や執行に反映されるよう、市に対し議会として指摘した内容は次のとおりです。



決算審査特別委員会全体会での締めくくり質疑

令和4年度 決算審査特別委員会 指摘事項について

●子ども施策における重要課題について

学校では、教員に求められる資質や業務内容が変化しており、初任者研修などの適切な研修の在り方の再検討や教員の負担軽減を図る必要がある。また、いじめや不登校の増加に対し、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーは、対象となる児童・生徒に十分な対応ができていない。その一因でもある子どもの貧困に対しては、子どもの貧困対策コーディネーターの委託先では一人工で配置されたが、対応は十分であったのかを検証する必要があることも重ねて指摘する。

よって、不登校の原因ともなるいじめや貧困に対応する人材の質と量の確保、及び社会環境の変化に対する学校教育の在り方に関する意識改革や、抜本的な制度の再構築に向けた調査・研究を深め、子ども施策における重要課題の根本的な解決に取り組むこと。

●積極的な事業推進のための予算編成について

不測の事態と思われる令和3年度決算において、将来負担比率はマイナス42.2%であり、子育て・教育、安心、安全、快適など総合計画推進のための個別計画が完全に達成されていたとは言い難い。特に、合計特殊出生率(R2: 1.41 → R3: 1.37)と市民アンケートの子どもを産み育てやすい環境が整っていると思う人の割合(R2: 24.3% → R3: 22.1%)が前年度より減少していることを指摘する。

よって、将来負担比率の大幅なマイナスは事業の先送りとも捉えられることから、来年度予算編成においては、市民要望や少子化対策などの個別計画実現のため、将来負担比率がゼロ近傍となるよう市債や基金を積極的に活用し、各所管課の事業要望に沿った予算措置を行い、市民の要望に応えること。

●まつぼっくりのシステム改修について

まつぼっくりは各スポーツ・文化施設の市民利用時に使用されているが、仕様が古く、新施設のマスター登録に高額な費用がかかるなど非効率である。また、連絡ごみの申込みなどでは、LINE を使った予約管理やLINE Pay での支払いなど進めている中、現状のまつぼっくりは市民から見ても非常に使いづらい仕組みとなっていることを指摘する。加えて、指定管理者に委託されている現場から改善の声は上がりづらい状況であるとも推察される。

よって、関係課と情報システム課は現状を早急に調査の上、市民が利用しやすいシステムへの改修を行うこと。

●消防団員確保対策について

本市の消防団員数は、条例定数2864人に対し令和3年度当初の団員数は2416人で、令和2年度当初から67人の減員となっており団員数の減少が止まらない。災害も多様化する中、消防団は地域の消防防災の中核としてますます役割は重要となっており、団員数の減少が今後の消防団活動にも影響が及ぶことを危惧することから、団員加入促進の取組みが不十分であったことを指摘する。

よって、国及び県との連携を緊密に図り、必要団員数確保の検証を含めた対策に努めること。

●地震対策推進事業のうち木造住宅に係る補助事業及びブロック塀等耐震改修助成事業について

令和2年度に抽出した約4900か所の対策すべきブロック塀に対し、戸別訪問等啓発活動を行っている。また、昭和56年5月以前に建てられた木造住宅に対する専門家診断のダイレクトメール1万1000通にも、ブロック塀の改修助成事業の記載をしているが、改修率が鈍化しており、木造住宅及びブロック塀の耐震対策への広報が不十分であったことを指摘する。

よって、想定される東海地震に備え対策は急務であることから、改修促進に努めること。

●指導監査事業について

本市は福祉施設、保育所等への指導監査に入っているが、民間事業所や企業等の参入も含め、福祉や保育現場の経験のない経営者の下で運営されている施設が増加傾向にある。令和3年度も指導を受けた事業所が多く、改善が継続されていない事業所もあることから、監査体制が不十分だったことを指摘する。

よって、訪問回数の確保や監査職員の増員、人材育成や体制強化を図るよう努めること。

※ 分科会での質疑は、次ページのとおりです。

分科会審査の概要

分科会の所管事項

・第1分科会：総務委員会、市民文教委員会、建設消防委員会（土木部・上下水道部）
 ・第2分科会：厚生保健委員会、環境経済委員会、建設消防委員会（都市整備部・消防）

第1分科会

●創エネ・省エネ・蓄エネ型住宅推進事業について

【質疑】蓄電池以外の補助金額が年々下がっている理由は。

【答弁】基本的に設置費用の約5%程度の金額を目安として補助金額を設定したが、蓄電池については自家消費型システムへの切換えを積極的に促進するため高い補助水準を維持している。

●土木費における中規模要望の進捗状況について

【質疑】3年度の工事実施件数及び執行額は。

【答弁】3000万円以下の中規模要望438件は、3年度末に完了しており、3000万円を超える92件は、3年度末

で42件が完了している。また、当該事業に要した執行額は21億647万円であった。

【質疑】平成30年6月末から3年度末までに新規で受け付けた中規模要望の件数と、そのうち3年度に工事を実施した件数は。

【答弁】170件の新たな中規模要望があり、このうち4件が完了した。

●不登校児支援推進事業について

【質疑】小・中学生の不登校児童・生徒の人数と、適応指導教室における個別指導の対応状況は。

【答弁】3年度の新規不登校児童・生徒は小学生388人、中学生570人であり、継続は小学生255人、中学生690人であった。不登校児童・生徒の増加は大きな問題と捉えており、校内適応指導教室の充実などで対処していく。また、個別指導については、現在、指導員1人に対して児童・生徒が1.5人の割合で、10名程度を指導している。

●スクールカウンセラーについて

【質疑】55人を配置しているが、3年度における充足状況は。

【答弁】スクールカウンセラーのニーズは大きく増加しており、必要数に対して不足が生じている状況であった。このため、各中学校区内で調整し、対応してきたが、増加するニーズには応えられるようにしていきたい。

第2分科会

●消防団員の確保対策について

【質疑】消防団員の加入促進を実施したことによる効果は。また、団員確保に向けた取組の総括は。

【答弁】団員数の減少は、男性が家庭やプライベートを優先するなど、価値観が変化していることや、共働き世帯が増えていることが要因であると認識している。加入促進に向けたプロモーションなどを行ったことにより、女性団員が5人、学生団員が6人入団しており、今まで広報が届かなかった層にアプローチができたと考えている。

また、加入促進に一定の効果があったと総括していることから、

取組を継続するとともに、火災を含めた災害活動における人員確保の重要性を考え、機能別消防団員の充実についても取り組んでいく。

●ブロック塀等耐震改修助成事業について

【質疑】2年度から件数が減少しているが、3年度の対応は。

【答弁】昭和時代に造られた団地や緊急輸送道路沿いのブロック塀について、個別訪問やポスターイングによる広報活動を3200か所で行った。さらに、木造住宅耐震診断啓発のダイレクトメールで、ブロック塀などに関する制度内容を併せて通知することで、ブロック塀などの改修につなげた。

●子どもの貧困対策コーデイネーター事業について

【質疑】コロナ禍により家庭の経済環境が激変した家庭も多く、コーデイネーターの役割の重要性が増していることが相談件数の増加からも分かるが、コーデイネーターは1人で十分だったのか。

【答弁】計画的な取組や応援体制により、年間を通して予定していた業務は遂行できた。



決算審査特別委員会(分科会)

常任委員会での4年度補正予算などの審査の概要です

総務委員会

●多文化共生事業について

質疑 ウクライナ避難民の市内への受入れに関し、認識している課題は。

答弁 避難民の滞在が長期化するに伴い、就労などのための日本語習得が必要になる点を課題と認識している。そのため、本市の外国人学習支援センターなどを活用し、自立した生活を営めるように言語的な支援をしていきたい。

●職員の定年等に関する条例などの一部改正などについて

質疑 市職員の定年を段階的に65歳へ引き上げるに当たり、今後の職員採用に関する考え方は。

答弁 当面の間、2年に一度は定年退職がない年が発生するが、その際も新規採用をゼロとするのではなく、採用者数の平準化を図りながら、必要な職員を確保していく方向で検討を進めている。

厚生保健委員会

●児童相談所運営経費について

質疑 子供や保護者対象の児童虐待防止のためのSNS相談の対応時間を、午前9時から午後5時までとした理由は。

答弁 事業の初年度であることから、まずは児童虐待の通告があった場合に素早く対応できる体制の確立を優先したためである。今後事業を継続する中で、対応時間の見直しについても検討していきたい。

●感染症対策事業について

質疑 新型コロナウイルス感染症の入院医療費の公費負担について、患者は保健所から送られる申請書類により手続をしているが、書類の送付に要する期間は。

答弁 約半数の病院については、申請書の代行作成により、速やかに手続ができていたが、残りの病院については書類の送付に約1か月の時間を要している状況である。

環境経済委員会

●家庭ごみ減量啓発冊子作成事業について

質疑 外国人世帯を含めた市民への配付方法は。

答弁 広報はままつと同時に自治会を通じた配付を考えているが、市施設への配架や、国際交流協会との連携、ホームページへの掲載なども通じて、できる限り広く市民に周知していく。

●未来を拓く農林漁業育成事業費補助金について

当局説明 6次産業化に向け、1次産業及び2次・3次産業の2社以上が連携して行う新製品開発などを支援するものである。

質疑 補助金の活用促進策は。
答弁 関係団体で構成される農業振興協議会などを通じて情報発信を行っているが、新たな事業を掘り起こすため、協議会での意見を参考に、補助金の活用事例集を発行する。

建設消防委員会

●都市公園条例の一部改正について

当局説明 受益者負担水準の適正化を目的に、動物園の入園料を見直すものである。

質疑 入園料の比較対象とした近郊の同種施設とは、動物の展示数が異なるのではないか。

答弁 施設が必要とする維持管理コストに見合った一定の受益者負担を求めていくことが適正化の趣旨であり、今回の入園料の設定は、近郊同種施設との展示数の差を勘案したものととなっている。



浜松市動物園

市民文教委員会

●自治会等DXサポート事業について

質疑 開発したツールを自治会に展開し、ICT化を促進することのだが、ツールの具体的な内容は。

答弁 アドバイザーを派遣し、各自治会の要望に応じてツールを開発するもので、今回はホームページの作成を想定しており、完成したフォーマットを市の所有のものとして、他の自治会へ展開していく。

●いじめ相談等業務委託費について

質疑 チャットを使った相談対応を毎週木曜日の夕方、夜間に設定した理由は。

答弁 問題行動が多発する曜日の帰宅時間に設定したものの、相談は相談フォームからいつでも申込みが可能であり、緊急性があるものは教育委員会職員が確認し、学校及び教育委員会でも対応していく。

代表質問

9月28日には、会派を代表して5人の議員が質問を行いました



自由民主党浜松
稲葉 大輔

災害復旧に関する事業者支援制度の構築を

質問 防災都市づくりでは、局地的な豪雨による水災への想定も必要となる。本市には災害救助法の適用を受けない自然災害で被災した事業者への復旧の支援や見舞金の制度がないことから、支援制度を講ずる考えはないか。

答弁 自然災害によって、激甚災害法や災害救助法の適用を受けた場合、事業者は国や県の制度を利用することで低金利の融資を受けることができるが、局地的な豪雨による浸水被害などは、これらの適用とならない。



7月の豪雨による被災状況

今後、本市においても局地的な自然災害の増加が懸念されることから、被災した事業者に対し、市の制度融資において災害復旧資金の新たな追加を検討するなど、事業者の持続的な事業活動を支援していく。

その他の質問

- ① 適応指導教室の呼称を親しまれる愛称に
- ② 財政上で将来負担比率のゼロ近傍実現を
- ③ 経済界のドーム球場要望に対する所感は



公明党
幸田 恵里子

動物愛護と共生社会実現へ指針策定と啓発を

質問 多頭飼育や野良猫のふん被害などの課題解決のため適正飼養に関する条例制定の方向性が示されたが、それに伴うガイドライン策定について、その内容と周知方法はどうか。

答弁 ガイドラインでは、主に動物の適正飼養に関わる具体的な対応について記載していく。猫の適正飼養問題については、室内飼養の推奨や地域猫の考え方などを市民に分かりやすい表現で作成し、多頭飼育問題についても、条例で定める届け出に、他都市の事

例を参考に具体的な対応方法を分かりやすく記載していく。
周知方法については、ホームページやSNS、広報はままつへの掲載をはじめ、チラシ配布や動物愛護週間に実施するイベントなどで広く周知していく。

その他の質問

- ① ヤングケアラー支援の具体策は
- ② 将来の市立幼稚園・保育園の在り方は
- ③ 男性トイレへサンタリーボックス設置を



男性トイレに設置されたサンタリーボックス (田原市)



創造浜松
関 イチロー

重要課題である少子化、人口減少に歯止めを

質問 合計特殊出生率が上昇傾向の都市や、人口減少スピードが鈍化した都市もあり、本市でもそれらの都市に倣った施策を行うべきと考えるがどうか。

答弁 国の令和2年の合計特殊出生率は、全体が1.33で前年比0.03ポイント低下し、本市も同様の傾向である。他都市では、かつて、賃貸住宅を建設し子育て世代を呼び込むことで一時的に人口や出生率が増加した都市もあったが、その後のニーズの変化により、数年後には転出により人口が減

少し、出生率も大幅に低下した事例もある。人口減少対策は、国全体の意識改革や社会構造改革が必要であると考えられるため、今後、国の施策と連動しながら、長期的視野に立った人口減少対策に取り組んでいく。

その他の質問

- ① ごみ有料化は削減目標の達成で延期を
- ② 委託方式をためらう児童会への対応は
- ③ 佐鳴湖公園の活用及び近隣整備の方針は



今後さらなる整備が期待される佐鳴湖公園



市民クラブ
北野谷 富子

大河ドラマを契機に天 浜線沿線の活性化を

質問 大河ドラマ「どうする家康」の効果を一過性とせず、将来の観光産業へ結びつけるため、沿線に家康ゆかりの地が多く存在する天竜浜名湖鉄道を活用した地域の活性化を進めていく考えはないか。

答弁 天竜浜名湖鉄道沿線には、二俣城・鳥羽山城や龍潭寺、掛川城など、家康公ゆかりの地が数多くある。また、漫画やアニメのモデル地となった浜名湖佐久米駅や天竜二俣駅のほか、庚申寺を中心に地域おこしに取り組み宮口駅など魅力的な

エリアもあり、この機会に合わせて周遊してほしいと考えている。このため、観光協会と連携した着地型旅行商品の造成や天浜線を含む公共交通機関共通のフリー乗車券の活用促進を図り、地域活性化につなげていく。



天竜浜名湖鉄道宮口駅の風景

その他の質問

- ① 部活動の地域移行は多様な手法の検討を
- ② eスポーツの正しい理解と普及の考えは
- ③ バイカー以外にも楽しめるイベント実施を



日本共産党浜松市議団
北島 定

家庭ごみ有料化に対す る市民の声への認識は

質問 家庭ごみ有料化説明会では、疑問視する声が圧倒的に多いという印象を受けた。説明会における市民の受け止め方について、どのように認識しているか。

答弁 家庭ごみ有料化に当たっては、広く市民から意見を伺うため、7月に制度に関するリーフレットを各戸配付し、7月12日からは市内46会場で説明会を開催するとともに、ホームページで説明動画を公開し、意見を募集している。

この結果、説明会で

の意見に加え、市ホームページへのメールやファクスなどにより9月28日までに1300件以上の意見などが寄せられており、10月7日の募集終了後、寄せられた意見を取りまとめ、今後の検討につなげていく。

その他の質問

- ① 統一協会に対する認識と今後の対応は
- ② 子供へのコロナワクチン接種率の状況は
- ③ 区再編の根拠と市民理解に対する認識は



家庭ごみ有料化説明会

一般質問



森田 賢児
創造浜松

日勤救急隊の創設で救 急体制の維持・強化を

質問 高齢化が進む中、救急搬送の需要が増加し現在の体制維持が困難になると考えられる。救急出動の約8割が日中であることを考え、子育て中の女性消防職員や再任用職員の活躍の場として、日勤救急隊を創設してはどうか。

答弁 近年の救急需要の高まりに対しては、この10年の間に救急隊を2隊増設したほか、日中に救急要請が集中することで、活動中の救急隊が一時的に逼迫するため、消防隊を臨時に救急隊として編成し、体制の強化を図っ

ている。高齢化の進展などを背景とする救急需要の増大に対しては、救急資格を持つ女性職員や再任用職員、さらには今後定年延長となる職員などで編成する日勤救急隊の導入を検討していく。

その他の質問

- ① みどりの食料システム戦略への取組は
- ② 有機農作物の消費先に学校給食の活用を
- ③ 学校給食における黙食の見直しを



救急救命処置訓練

一般質問

9月29日、30日には、8人の議員が質問を行いました



鈴木 幹夫
自由民主党浜松

県営野球場整備に併せ道の駅建設を

質問 遠州灘海浜公園篠原地区及び県営野球場の整備と道の駅の建設を一体的に進めるため、地域と連携し展開すべきと考えるがどうか。

答弁 遠州灘海浜公園篠原地区近接地への道の駅設置については、近隣の自治会や商工会議所などから要望があり、地域住民や経済界が、野球場建設によるにぎわいの創出や地域の活性化に対して、大きな期待を寄せていると強く感じている。当該地域への道の駅設置は、県による野球

場の建設を前提として検討すべきと考えていることから、今後は、県の動向を踏まえながら、民間活力の導入手法や他地域の先進事例、地域振興施設のコンセプトや採算性などについて具体的な調査を進めていく。

その他の質問
① 切れ目のない質の高い幼児教育・保育をの連携体制構築を
② ヤングケアラー支援
③ ノートリアの捕獲と農作物被害対策を



ヌートリアの目撃情報を求めるチラシ(抜粋)



小泉 翠
自由民主党浜松

全ての子供に切れ目のない支援を

質問 3歳から就学までの間、未就園児への安全確認を行う機会が不足していると考えられているがどうか。

答弁 本市では、国の通知に基づき、家族以外と接触のない子供の安全確認・安全確保を図るため、毎年、目視などにより乳幼児健診未受診者などの状況確認を行っている。このほか3歳児健診の未受診者や就園状況が確認できない児童について、児童虐待予防を念頭に、必要に応じて母子保健と児童福祉の部署が連携して対応している。

現在国では、未就園児などへ必要な支援につなげるための施策の検討を行っており、今後は国の方針などを踏まえ、必要に応じて本市の対応を見直すとともに、児童虐待防止など、引き続き児童の安全確認に努めていく。

その他の質問
① 要介護認定調査員確保への取組は
② 交流人口増加のための方策は
③ やらまいか大使の活用で観光振興を



浜松やらまいか交流会



鳥井 徳孝
自由民主党浜松

Jリーグチームを核とした地方創生政策を

質問 政令指定都市の中でJリーグチームがないのは本市だけである。Jリーグ構想は、子供たちに夢を与え地域活性化に大きく貢献することから、Jリーグチームと本市の地方創生の考えはどうか。

答弁 Jリーグチームは、集客による経済効果をはじめ、新たな雇用を創出する主体として、スポーツ教育や地元の情報活動などの観点からも重要な役割を担うとともに、地域の子供たちに夢や希望を与え、地元愛の醸成に寄与するものと考えている。

プロチームの誘致に関しては、チームを支える市民サポーターなどの存在が欠かせないことから、将来的にJリーグへ参加できる状況が整ったときには関係団体と連携を図り、チームを応援する体制づくりを検討していく。

その他の質問
① 5年度以降の浜松まつり開催の方向性は
② 新野球場整備の県要望と市長の考えは
③ 特色や魅力をPRできる公共施設整備を



市民音楽ホールに設置した鍵盤型横断歩道



齋藤 和志
自由民主党浜松

交通状況の改善へ道路整備方針の策定を

質問 三方原地域は、都市計画道路などの整備による利便性が増す一方、事故や渋滞など新たな課題発生も懸念されることから、整備効果の検証と今後の地域全体の整備方針策定への考えはどうか。

答弁 三方原を含む周辺地域においては、国道362号宮口バイパスや市道有玉南初生線バイパス、市道大原2号線の都市計画道路の整備や渋滞対策、交通安全対策を進めてきた。

4年度末までに市道有玉南初生線バイパス、来年度に市道大原2号



都田テクノロードにおける通勤時間帯の渋滞

線の完成を予定していることから、適切な時期に交通量などの変化を調査し、都市計画道路整備などの効果検証結果、昨年度の現状把握・検討を踏まえ、交差点改良やソフト対策を含めた事業方針の策定に取り組んでいく。

その他の質問

- ※4 ①メタバースを活用して市の魅力発信を
- ②小水力発電施設の導入と活用は
- ③自治会DXの推進と今後の展開は



鈴木 真人
市民クラブ

家庭ごみ減量の推進に向けた取組を

質問 ごみ有料化の前に、ごみ減量に協力できる工夫として、雑がみ回収に土日の集積所を活用するなど、さらに雑がみを出しやすい仕組み導入の考えは。

答弁 雑がみなど紙類の回収は、現在、民間回収拠点約170か所のほか、地域の資源物集団回収団体として登録のある798団体が行っている。登録団体へは、回収した資源物に対し協力金などを交付し団体活動を支援しているが、新型コロナウイルス感染症拡大により、活動を縮小・休止している

団体もあり、これまでの回収方法を見直す必要もあると聞いている。今後は、提案の土日の集積所を活用して回収する方法なども含め、回収団体の相談に乗りながら、地域の実情に則した市からの提案などを含め支援していく。

その他の質問

- ①新たな貯留施設の設置で豪雨災害対策を
- ※5 ②スクールロイヤー導入で相談体制充実を
- ③子宮頸がん検診に郵送検査キット活用を



集積所を利用した雑がみなど集団資源回収の案内(仙台市)



鈴木 唯記子
党派を超える会

ごみ集積所のルール違反へ指導と対策を

質問 ごみ出しのルール違反は集積所を管理する自治会などの負担が大きく、解決には市の働きかけが重要と考えるが、違反ごみのパトロールや指導について現状や対策はどうか。

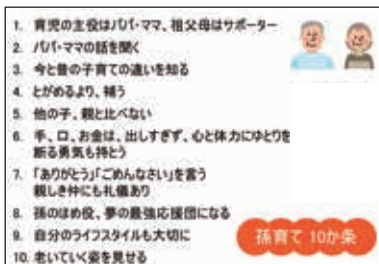
答弁 家庭系の違反ごみについては、違反内容を記したステッカーを貼って適切な排出を促すほか、パトロールを実施し、悪質な事案には、ごみ袋を開けて排出者へ指導を行うなど自治会と協働で問題の解決に当たっている。

また、事業系ごみの不適正排出では、事業

者向けに啓発用ガイドメールを送付し指導したほか、新たな集積所用看板を作成し、パトロールによる指導へつなげている。さらに、悪質な事案に対しては条例に基づく勧告、命令や事業所名などの公表を実施していく。

その他の質問

- ①発熱等受診相談センターの体制強化を
- ②体育振興会とスポーツ推進委員の統合を
- ③世代間ギャップを超える孫育ての考えは



孫育て10か条(抜粋)
(出典: NPO法人孫育てニッポン)



渥美 誠
自由民主党浜松

地域の期待を担う天竜区阿蔵山開発の考えは

質問 4年2月定例会

の質問に対し、阿蔵山開発地を工業用地として分譲予定との答弁があった。今後、阿蔵山開発をどのような考えで進めていくのか。

答弁 阿蔵山は約40年前に当時の天竜市より

開発の考えが示され、検討を重ねてきたが、アクセス道路などが整ったことから産業用地として開発を進めることとした。この開発はSDGsなどの時代の変化やDXなどの技術革新を先取りし、RE100実現を目標とした戦略的コンセプトをまと

めた上で進めていく。また、誘致企業は、

研究開発による新たな付加価値の創出や、先端技術の活用により新事業に取り組み企業などの集積を図り、阿蔵山から産業イノベーションを世界に発信していきたいと考えている。

その他の質問

- ① 新清掃工場稼働に伴う廃棄物処理体制は
- ② 天竜斎場、春野斎場の今後の考えは
- ③ 林業現場へのLPWA通信活用への展望は



森林組合おおいがわにおけるLPWA機器の設置事例

用語解説

※1 適応指導教室（5ページ）

学校の教室に行くことが難しい子供のために設置された、校内外の居場所。教室復帰や社会的自立に向けた学びの場。本市には校内適応指導教室が30教室、校外適応指導教室が9か所ある。（4年11月1日現在）

※2 ヤングケアラー（7ページ）

家族にケアを要する人がいる場合に、大人が担うようなケア責任を引き受け、家事や家族の世話、介護、感情面のサポートを行っている18歳未満の子供。

※3 みどりの食料システム戦略（8ページ）

災害や温暖化に強く持続可能な食料システムを構築するために農林水産省が策定した政策方針。化学農薬、化学肥料の使用量低減、有機農業の拡大などの数値目標を設定している。

※4 メタバース（10ページ）

アバター（自分の分身であるキャラクター）で体験するインターネット上の仮想空間サービス。他のユーザーと交流したり、仮想世界そのものの構築に参加したりする

※5 スクールロイヤー（10ページ）

ことが可能で、多人数のユーザーが身につけるファッションなど、現実空間での消費行動がメタバース上に転移して新しい形のコンテンツ消費を生むことが期待される。

問題やトラブルの初期対応段階における学校からの相談に対し、中立的な立場で法的な観点に基づく指導助言などを行う弁護士。学校におけるいじめや事故、過剰要求などの課題について、専門家への相談を必要とする機会が増加したことが背景に挙げられる。

※6 LPWA通信（11ページ）

従来よりも低消費電力、広いカバーエリア、低コストなどの特徴を持つIoT時代の無線通信システム。

本市におけるLPWA活用推進事業では、天竜区のモデル地域内に親機1台、中継機8台を設置して通信環境を確保し、林業従事者の携帯圏外でのコミュニケーションやトラブル対応などの安全確保や、木材運搬車の位置情報把握による生産性向上などを図る。

訂正 令和4年8月5日号につきまして、お配りした紙面の記載内容に誤りがありました。お詫び申し上げますとともに、下記のとおり訂正いたします。
3ページ 副議長プロフィール (誤)第86代 (正)第87代

発行／浜松市議会〒430-8652 浜松市中区元城町103番地の2
編集／浜松市議会事務局
印刷／株式会社アプライズ



浜松市議会では、インターネットによる本会議・委員会のライブ中継と録画配信を行っています。このほか、市議会ホームページでは会議録（本会議・委員会）なども掲載しています。ぜひ御覧ください。
<https://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp/gikai/>



単純な構図でありながら、花の配置に気を配り、静けさの中にも動きのある構図となっており、生き生きとした感覚に満ち溢れた作品となっている。一見すると木版画のようなデザイン性と静寂感が漂っている。対象を真上から捉え、花の下の木盆は逆遠近法を使っていることから、新たな日本画の創造に向け、実験的な試みが画面全体から見てとれる。木盆や花卉のかすかな陰影や色の変化も逃さない厳しいまなざしと、対象を愛おしむまなざしが同時に感じられる。これは不矩作品全般にわたって見られる造形的な特徴でもある。

モチーフの花はアンスリウムであろうか。アンスリウムは、西インド諸島から熱帯アメリカにかけて自生する熱帯の植物で、約600種類の品種があるらしい。アンスリウムの花言葉は色によって異なるが、白は熱心、赤は情熱を意味する。まさに不矩そのものである。



浜松市秋野不矩美術館 ホームページ
<https://akinofuku-museum.jp>

紙上美術館
No.179



再生紙を使用しています



不要になれば、雑がみとしてリサイクル

紙面に関するお問合せ
浜松市議会事務局 調査法制課
☎053-457-2513

今後の議会活動の予定
〔12月〕
5日 各常任委員会
12日 議会運営委員会
13日 本会議（採決・11月定例会閉会）